

3 不登校児童生徒に対するICT等を活用した支援

Web会議システムを使った授業配信

滝川市立江陵中学校区

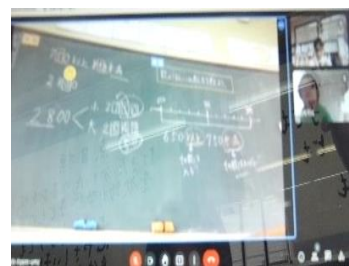
効果的な取組とするためのポイント

- ・児童が意欲的に取り組める教科から始め、徐々に配信する教科を増やしていくことに留意し、児童が抵抗感を軽減しながら取り組めるよう配慮
- ・各学校のICT等を活用した支援の具体的事例を取りまとめ、中1ギャップ検討委員会で共有し、成果及び今後の課題、対応について協議

取組の実際

<滝川市立滝川第一小学校の事例>

- ① 不登校担当教諭が、当該児童及び当該児童の保護者と相談して授業配信等の計画を作成（算数科、外国語科、図画工作科で実施）
- ② 学級担任は、黒板前にカメラを設置して授業を配信し、当該児童は、自宅で授業を視聴（右写真）
※当該児童の意向を踏まえて、児童側のカメラはオフに設定
- ③ 学級担任は、家庭訪問等で学習状況の確認や補充教材（プリント）等を配付
※今後、SCと連携を図り、当該児童が級友と交流する機会を設定する予定



成果（○）と課題（●）

- ICT等を活用して授業配信を行うことにより、学級担任等との関係性を維持し、当該児童が学校と関わりをもち続けるきっかけとすることができた。
- 不登校の原因は多岐に渡るため、児童生徒一人一人のニーズに合った支援となるよう、1人1台端末の活用など各学校で創意工夫を生かした取組を行う必要がある。

学びの保障に向けた1人1台端末を効果的に活用した学習支援

江別市立江別第二中学校区

効果的な取組とするためのポイント

加配教員が中心となり、不登校生徒及び不登校の傾向のある生徒に対して、各学年部の教員や学習支援員と連携を図り、ICTを活用した学習支援を行うなど、生徒の学びの保障に向けた取組を推進した。

取組の実際

全学年の不登校生徒に対して、家庭へのリモート授業配信（右写真）を行うことにより、生徒が各教科のワークシートをGoogle Classroomを活用して教科担任に提出したり、メッセージ機能を活用して学級担任や教科担任と会話をしたり、デジタルドリルの活用を進めたりするなど、ICTを効果的に活用した学習支援を行うことができた。



成果（○）と課題（●）

- 別室登校や家庭へのリモート授業配信を増やしたことにより、不登校生徒及び不登校傾向のある生徒に対する不安を解消したり、学級担任等との信頼関係を構築したりすることができた。
- リモート授業配信を希望しない生徒や保護者がいるため、生徒の学びの保障に向けて、ICTを活用した学習支援の手立てを工夫する必要がある。

不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導の工夫と充実

小樽市立北陵中学校区

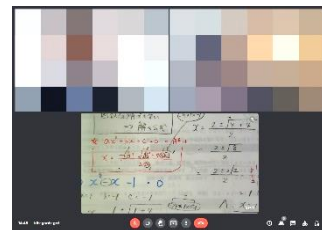
効果的な取組とするためのポイント

- ・ 加配教員が関係機関等や小学校との連携の中心になること
- ・ 個々の児童生徒の状況に応じてICTを活用した支援を組織的に充実させること

取組の実際

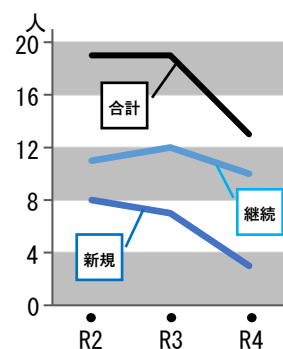
小樽市教育支援センター登校支援室と連携し、加配教員が中心となって関係生徒の補充的な学習の計画を立案した。また、小・中学校3校の不登校児童生徒の実態や支援の在り方についてとりまとめた。

当初はICTへの抵抗感を理由に、生徒がオンライン指導を望まない例が多かったが、生徒の別室登校時にオンラインやAIドリルの取組を継続したところ、学習意欲が向上し、オンラインによる教育機会が増加した。(右上写真)



成果(○)と課題(●)

- 新規の不登校生徒数について、令和2～4年度にかけて8名→7名→3名と減少した。また、合計(新規・継続)の不登校生徒数の全校生徒数に対する割合が、令和3～4年度にかけて8.0%から5.3%へ減少した。(右下図)
- 継続の不登校生徒数については改善の余地があるため、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立に至る過程を支援する取組を充実させる必要がある。



児童生徒一人一人の願いや心の健康状態に応じた支援

登別市立鷺別中学校区

効果的な取組とするためのポイント

スクールカウンセラーとの面談と並行して、リモート授業や別室登校、放課後登校、家庭訪問など、児童生徒の願いや心の健康状態を踏まえた支援の在り方を工夫して取り組んでいる。

取組の実際

【自宅におけるリモート授業】

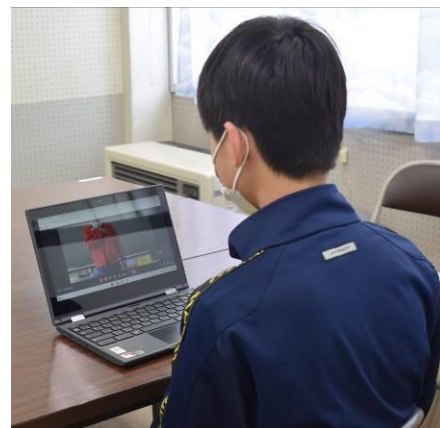
朝の会からリモートで参加し、1日2時間程度、自宅で授業を受けるとともに、当該児童の状況を踏まえて、参加する時間を調整している。

【別室登校でのリモート授業】

登校意欲はあるが、集団への適応に困難が見られる生徒に対し、別室で全ての授業にリモートで参加している。(右写真)

【小中一貫教育推進協議会での情報交流】

加配教員が中心となり、各校の不登校児童生徒の状況について情報交流するとともに、共同で取り組むことのできる対策を協議している。



成果(○)と課題(●)

- リモート授業を推進したことにより、学びの保障及び学校とのつながりを維持することができた。
- 不登校児童生徒や保護者の教育的ニーズに合わせた適切な支援を継続して行うため、学びの保障や社会的自立に向けて、全教職員の共通理解を土台とした取組を推進する必要がある。

不登校傾向の生徒に対する学習機会の保障

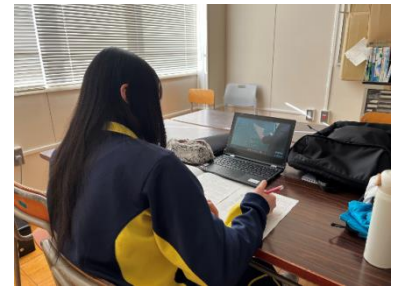
様似町立様似中学校区

効果的な取組とするためのポイント

不登校の傾向が見られ、別室登校をしている生徒の学びの保障及び、学級での生活への復帰に向けた支援の方法として、ICTを活用し学習指導を行ったり、休み時間での生徒同士の交流の機会を設定したりした。

取組の実際

不登校の傾向が見られ、別室登校をしている生徒の学びの保障のため、ICTを活用し、遠隔会議システムによる双方向での授業配信を行った。学級担任は、別室登校が続く当該生徒及び保護者と相談しながら、学習計画を作成し、教科担任が学習計画に沿って授業配信を行うとともに（右写真）、必要に応じて別室を訪問し、当該生徒へ個別の学習指導を行った。また、当該生徒の学級復帰に向け、学習及び人間関係の不安感を緩和させるため、移動教室等がなく、複数時間続けて授業配信を行ったり、**学級の生徒が、当該生徒へ声を掛けたりして交流する場を意図的に設定**した。



成果（○）と課題（●）

- 別室登校時にICTを活用した双方向授業を行うことで、すぐに学級で授業に参加することに比べ、生徒の精神的な負担感が少なく、学級で授業参加をすることに近い状態で、効果的に学習を進めることができた。
- 授業内において、協働的な学習活動の機会設定が十分でなく、説明を聞く時間が長いという課題が見られたことから、別室登校の生徒が、多くの生徒とICTを活用して交流することができるよう、教職員が授業改善を図る必要がある。

不登校生徒に対するICT等を活用した支援の充実

函館市立巴中学校区

効果的な取組とするためのポイント

別室へのオンライン授業配信、ICT教材を活用した習熟度別の学習支援、Web会議システムを活用した本人及び保護者との教育相談など、不登校生徒一人一人の状況に応じたきめ細かな支援の充実を図る。

取組の実際

不登校生徒の学習機会を保障するため、独自に設置している「**巴サポートルーム**」において、**不登校生徒一人一人の状況に応じた支援**を実施した。（右写真）

また、Web会議システムを活用することで、教室に入ることや登校することが難しい生徒と学級担任等との信頼関係の構築に生かすようにした。



成果（○）と課題（●）

- 「巴サポートルーム」の活用について、本人及び保護者に対し、趣旨や支援内容等を明確にして説明したことにより、保護者との緊密な連携による支援を行えるとともに、生徒の学習に対する不安の解消につなげることができた。
- 各推進校においても、ICTを活用した学習支援の取組について、年間を通して組織的、計画的に進めることができるよう、好事例を波及させる必要がある。

学校行事のオンライン配信

厚沢部町立厚沢部中学校区

効果的な取組とするためのポイント

- ・ 全校集会、学校祭、生徒総会等の学校行事をオンライン配信して家庭からでも参加できる環境を整える。
- ・ 家庭で作成したメッセージや作品、ポスター等を掲示し、学校行事への参加を促す。

取組の実際

生徒総会への参加

議案書をデータで配付、意見はオンライン

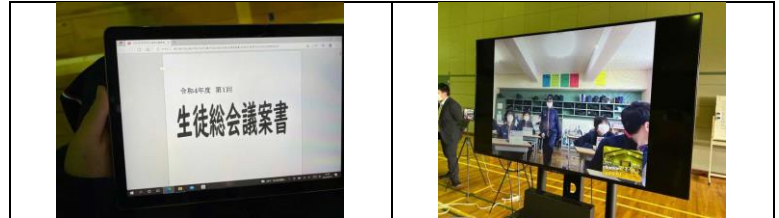
で提出可能（右写真）

学校祭のYouTube配信

学校祭の様子をライブ配信

全校集会への参加

全校集会で校長講話などを視聴



【データで議案配付】

【オンライン配信画面】

成果（○）と課題（●）

- 学校行事や特別活動をオンライン化したことにより、授業よりも参加しやすい環境が構築できた。
- 配信に関する知識をもつ教員数が少ないため、教職員のICTスキルを高める必要がある。

ICTを活用した児童生徒の「学びを止めない」支援

旭川市立光陽中学校区

効果的な取組とするためのポイント

小・中学校が連携し、長期欠席している児童生徒へのICT機器を用いた支援のガイドラインについて検討して共有し、全教員が躊躇なく活用できる体制の構築及び積極的な運用を行った。

取組の実際

推進地域の学校、とりわけ中学校においては長期欠席生徒数の高止まりが続いており、これらの児童生徒への学習支援は急務であるが、1人1台端末を用いた学習支援に必要感を感じつつ、様々な条件等を鑑み、活用への一步を踏み出せない教員が散見された。

そこで、今年度は小中連携会議において、ICTを活用した学習支援の在り方について検討し、旭川市教育委員会とも連携してその骨子を明らかにした。

- ・ Google Classroomを通じた、文書や通信、学習資料等の送付と共有について
- ・ Google Meetを通じた、対話による健康確認、教育相談活動について
- ・ 家庭学習における、学習アプリや学習サイトの活用について



成果（○）と課題（●）

- 小・中学校でガイドラインを共有したことにより、教職員が安心してオンライン面談（上写真）への一步を踏み出すことにつながった。これまでは家庭訪問時に短時間しか対話できなかった生徒の、家庭での生活や学習の様子をじっくりと聴き取ることができるようになった。実施した家庭の保護者からは「学校とつながっている実感があり、安心感が高まった」等の言葉が寄せられた。
- オンラインの環境が整っていない家庭や、オンラインを通じた面談・学習を希望しない生徒・家庭が多数存在するため、別のアプローチについて検討していく必要がある。
- 双方向通信による授業配信の実施に向けて、障壁となっている課題を解決する必要がある。

不登校や不登校傾向が見られる児童生徒への支援

鷹栖町立鷹栖中学校区

効果的な取組とするためのポイント

不登校や不登校傾向が見られる児童生徒に対し、学級担任だけではなく複数の教員で適切に支援できるよう、校務支援システムを活用して教員間の情報共有を大切にしている。また、欠席した際の学習保障に向けて、1人1台端末を活用した授業配信やクラウド型学習支援アプリによる支援体制を整えた。

取組の実際

教員が連携しながら、個々の不登校児童生徒の状況に応じたきめ細かな支援ができるよう、**校務支援システムを活用**し、情報共有を図っている。

また、町内の小・中学校では、不登校児童生徒等の学ぶ機会を確保するため、1人1台端末を活用し、ICTによる授業配信やクラウド型学習支援アプリを提供することができるよう、体制整備を行った。現在、小学校においてニーズはないが、中学校では本人及び保護者のニーズに応じて、生徒の学習状況を考慮しながら**クラウド型学習支援アプリを活用**している。

成果（○）と課題（●）

- クラウド型学習支援アプリを活用することにより、生徒の学習状況に応じた学習支援を行うことができた。
- ICTの活用により、学校と児童生徒及び家庭とのつながりがもてるような取組を進める必要がある。

1人1台端末を活用した教育相談・学校行事等の配信

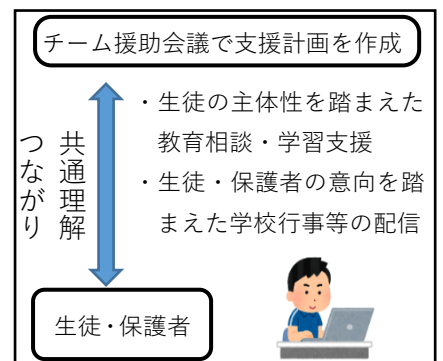
羽幌町立羽幌中学校区

効果的な取組とするためのポイント

- ・学習支援や教育相談は、生徒の取り組みやすい教科を優先して実施
- ・行事や特設授業の配信については、生徒や保護者の意向を踏まえて計画・実施

取組の実際

- ① 加配教員を中心とした「チーム援助会議」は、当該生徒、保護者と相談の上、学習相談や学校行事などの特別活動の参加に係る支援計画を作成
- ② 学級担任は、計画に基づいて教科担任との相談内容や学校行事等の配信について、調整
- ③ 生徒は自宅で1人1台端末を活用して、**教科担任と学習課題や学習状況についてのオンラインによる相談**及び特設授業等を視聴
- ④ 学級担任は1人1台端末のメールや家庭訪問等で学習課題等を回収



成果（○）と課題（●）

- 「チーム援助会議」が支援方針に基づいて、不登校生徒への支援を組織的に実施することにより、生徒や保護者の不安感の軽減につながった。
- 不登校生徒に係るICTの活用について新たな不登校を生み出さないための支援策について評価・改善を図り、小・中連携の視点に立った組織的な取組を一層推進させる必要がある。

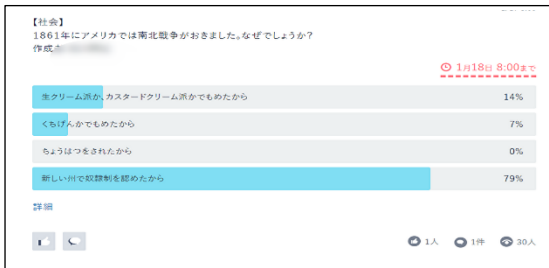
教育クラウドサービスを活用し子ども同士をつなげる取組

枝幸町立枝幸中学校区

効果的な取組とするためのポイント

教育クラウドサービス「まなびのポケット」のチャンネル機能を活用し、生徒間で学習課題を出し合う活動を通して、生徒同士をつなげるための支援を実施した。

取組の実際



中学校教員を対象に、加配教員がG I G Aスクール構想の趣旨について研修を実施し、不登校児童生徒の支援について、ICT等を活用した具体的な方策等を提示した。

研修後、同時双方向型のオンライン授業で教育クラウドサービス「まなびのポケット」を活用し、生徒同士で課題を出し合う活動を通して、交流する場を設定し、生徒同士をつなげるための支援を実施した。(左図)

成果 (○) と課題 (●)

- 自分のペースで学習課題に取り組むため、同時双方向型の授業が苦手な生徒も参加することができた。
- 今後、1人1台端末を活用し、生徒同士が対話する場を定期的に設定する必要がある。

ICT機器を効果的に活用した児童生徒との交流機会の確保

遠軽町立遠軽中学校区

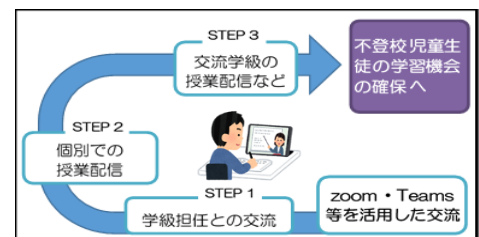
効果的な取組とするためのポイント

不登校・不登校傾向にある児童生徒に対して、学校からの情報提供、授業配信や対話機会の確保等、ICT機器を効果的に活用することにより、学校関係者や友人とのコミュニケーションを途切れさせることなく、「つながる」機会があることの安心感を醸成することができる。

取組の実際

学習機会の確保

不登校及び不登校傾向にある児童生徒に対して、1人1台端末を活用して授業配信を行うとともに、学習支援アプリを活用することにより、学習の遅れに対する不安を解消するための学び直しの機会を確保することができた。(右図)



成果 (○) と課題 (●)

- 児童生徒及び保護者と面談し、生徒の実態に合わせ柔軟に対応したことにより、学ぶ機会の保障や学校とのつながりを確保することができた。
- 不登校児童生徒の多様な要因等を多面的かつ的確に把握し、長期的な視点で個に応じた具体的な対応ができるよう体制を構築していく必要がある。

家庭と連携した授業等のオンライン配信

芽室町立芽室中学校区

効果的な取組とするためのポイント

不登校及び不登校傾向のある児童生徒に対しオンライン授業等を行う際、継続的に家庭との連携を図り、効果的なオンライン授業等の工夫・改善に努めた。

取組の実際

不登校児童生徒に対して、タブレット端末を当該児童生徒宅に配付し、Web会議システムを活用したオンライン授業や教育相談を行った。(右写真)

学級担任及び加配教員が家庭訪問等で当該生徒及び保護者に説明し、カメラのオンオフは当該児童生徒に自己決定させるなど、当該児童生徒がオンライン授業や教育相談に参加しやすい方法を検討した。また、オンライン授業の際、家庭と連携しながら、当該児童生徒がオンラインで授業に参加することを学級に周知し、理解を促すとともに、交流を通して人間関係の構築及び学級全体の帰属意識が高められるよう配慮した。さらに、週に1回、オンライン授業や教育相談の実施について、当該児童生徒及び保護者と話し合い、工夫・改善に努めた。



成果(○)と課題(●)

- 当該児童生徒及び保護者と学級担任が意思疎通を図りながらオンライン授業等を行ったことにより、不登校児童生徒が授業に参加する機会が増えた。
- 児童生徒によってはオンラインによる授業参加に抵抗感をもつケースもあるため、児童生徒及び保護者のニーズや気持ちの把握に努め、個に応じた支援を工夫する必要がある。

登校への見通し及び人間関係の構築につながる授業配信

厚岸町立太田中学校区

効果的な取組とするためのポイント

教室に入ることが難しい児童生徒に、登校への見通し及び人間関係の構築につながるよう、教科の特性に応じてタブレット端末を活用した授業配信を実施した。

取組の実際

不登校傾向となった児童生徒、新型コロナウイルス感染症の影響による出席停止等で登校できない児童生徒に対し、人間関係を構築し学校の生活リズムに慣れさせるよう、オンラインによる授業配信を行った(右写真)。加配教員が当該児童生徒の状況に応じて日程や時間割、教科等を調整した。また、休み時間も接続することで、通常と変わらず児童生徒同士で交流する姿も見られた。



成果(○)と課題(●)

- オンラインによる授業配信などの学習支援、児童生徒同士の交流を行うことにより、不登校傾向の生徒の学習意欲の喚起や生活習慣の確立への意識向上につなげることができた。
- 不登校傾向の要因に応じた支援をするため、より適切な支援方法や支援体制を検討する必要がある。

効果的な取組とするためのポイント

- ・児童生徒の状況を把握し、教育相談を充実させ支援ニーズに応じた学習支援をICTを活用して行う。
- ・児童生徒個々の状況に応じて目標（短期・長期）、目的を明確にし、支援に当たっている。

取組の実際

- ・加配教員を中心に前年度からの引継ぎ事項を確認し、校内支援委員会で支援の検討を行い、学校に登校できない児童生徒への学びの一形態としてオンライン授業や課題配信を行っている。
- ・児童生徒の思いや願いを大切にしながら、ICTの活用を含めた支援の在り方を検討し、見通しをもちながら無理なく学習に取り組める環境を整備している。（右写真）



成果（○）と課題（●）

- ICTを活用し学習に取り組み、自主性を伸ばすとともに達成感を得たことにより、別室登校を経て、通常登校できるようになった生徒がいる。
- 複数の児童生徒に対応する必要があるため、指導体制を整備し各教科等の学習計画を作成する必要がある。